

琉球大学学術リポジトリ

平成15年度前学期学生による授業評価の分析結果

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西本, 裕輝, Nishimoto, Hiroki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/42042

平成15年度前学期学生による授業評価の分析結果

大学教育センター助教授 西本裕輝

序章 問題の所在

はじめに～今、なぜ授業評価か？

本学において授業評価のデータを用いての本格的な分析は今回が初めてであると言ってよい。学部によって事情はさまざまであろうが、例えば、授業評価の実施率が30%に満たない学部があったり、データ入力を行っていない学部もあるようである。そうした事情もあって、これまでは本格的なデータ分析が行われていない。

共通教育においても例外ではない。これまで8年間にわたって授業評価を実施してきており、他大学に比べ歴史はあり、ある程度の成果もあげていると言える。ただ、他大学がすでに授業評価のデータをストックして分析し、報告書を出版し、教育改善に役立っているのに対し、琉球大学では、講義担当教員に対してフィードバックはしているものの、データのストックや分析は行われていない。これは、授業評価の実施を始める当初、「あくまでも個人の授業改善に役立てるための授業評価であり、業績評価には使用しない」との暗黙の取り決めがあったためである。

しかし時代は変化した。外部評価という外圧が押し寄せてきたのである。例えば、大学評価・学位授与機構による評価（教養教育）を本学も平成13年度～14年度にかけて受けた。この評価は現行の制度の中でもっとも権威のある重要な外部評価であると言え、その評価結果は文科省からの大学への予算の配分にも影響を与えるものである。

その外部評価の必須項目の一つが「授業評価」である。つまり、授業評価の分析結果を提出できない大学は評点が悪くなり（というより分析不能＝0点となり）、全体の評価も下がる。ゆえに、大学側としては絶対にデータを提出しなければならない（具体的には、学生の満足度が5点満点中平均何点であ

ったか等）。そのため、平成14年5月28日の全学教育委員会では、教養教育（本学の言葉では共通教育等）に限ってのみ授業評価データのストック及び分析が可能となった。以下がその議事録からの抜粋である。

「評価項目の『教育効果』に係る点検評価は、学生による授業評価の結果等を判断して教育の実績や効果が得られたか評価することになっている。ついては、平成7年4月に評議会決定した『学生による授業評価実施要項』では、授業評価の結果の管理方法は各学部委ねることになっているが、学生による授業評価（共通教育）の全項目を統計処理・分析と外部へ公表することについては了承された。」

（平成14年5月28日開催全学教育委員会議事録より）

今回、このようにセンター報にて、共通教育分野に限ってはあながち、授業評価の分析結果が報告できるのも、そうした背景がある。

ただ、今回は外圧により授業評価の分析が可能になったわけであるが、それは必ずしも悪いことばかりとは言えない。例えば、分析が可能になったことにより、自分の授業満足度の得点が相対的にどの程度かが把握できる。これまでは授業評価結果が個人にフィードバックされるのみであったため、自分の得点がどの程度であるのか、平均より上であるのか下であるのか、わからないままであった。それが今回からは、自分の授業評価結果を相対的に判断することができる。

先ほど他大学の状況についてふれたが、例えば九州大学のように、授業評価結果の良かった教員の個人名を授業評価報告書に明記している大学もある。また、大阪大学のように、授業評価結果を用いながら、教員の表彰を行っている大学もある。他大学ではこうした、いわばインセンティブに授業評価が使

用され始めているのである。

本学が突然そうした段階まで進むとは思わないが、あるいはそうした方向に向かうのが必ずしも本学にとってよいことかどうかは判断の難しいところであるが、そういう時代になってきているというのは確かなことである。

さらに言えば、大学評価・学位授与機構の評価は、今後確実に各学部へ入ってくる。そうなれば、すべての学部の専門教育において授業評価を実施し、データ入力を行い、それをストックして分析し、今後の教育改善に役立てるという一連のサイクルを構築し、評価が入った際にはいつでもデータを提供できる体制を作っておかなければならない。今回の大学教育センターの行う共通教育分野における授業評価の分析結果が、そうした一つの方向性を示すことができれば幸いである。

平成15年度からの授業評価項目の変更点

授業評価項目は平成15年度から若干変更された。本格的な分析に入る前に、ここではまず、主な変更点と変更の趣旨についてふれておきたい。

(1) 変更点1～各科目群ごとの項目の追加

全国的な動きを見ていると、近年、授業評価項目は、だいたい20項目に収束し落ち着きつつある。本学の共通教育に使用される項目も20である。ただし、この20項目は、どの講義にも対応できるよう作成されているため、かなり一般化されているというか、抽象的な項目が並んでいる。こうした項目は、全体像を把握するには適しているが、細かい点までは把握できないという欠点もあった。

共通項目は、具体的には以下ようになる。

- 問1 所属学部
- 問2 この授業はもともと興味があった科目である
- 問3 私のこの授業の出席率はよかった
- 問4 私は、興味を持って積極的にこの授業に参加した

- 問5 この授業についての基礎知識（予習を含む）は十分であった
- 問6 授業はシラバス通りに進められた
- 問7 シラバスは受講決定や事前学習に役立った
- 問8 使用したテキストは適切であった
- 問9 教員の説明は分かりやすかった
- 問10 教員は学生を積極的に授業に参加させていた
- 問11 授業の開始・終了時間は適切であった
- 問12 目的や趣旨がはっきりしていて、体系化された授業であった
- 問13 教養や見識を養ううえで、あるいは、技能などを身につけるうえで、得るところの多い授業であった
- 問14 学問に対する見方や考え方を深く学ぶことができた
- 問15 この授業についていけた
- 問16 心に残る良い授業であった
- 問17 「大学で学んでいる」という実感がわく授業であった
- 問18 この授業を受けて、学問に対する興味が増した
- 問19 この授業を他の学生にも薦めたい
- 問20 総合的に判断してこの授業に満足している

例えば、外国語科目と自然系科目とは、科目群の設置された理念も違うであろうし目的も違うだろう。そうした別々の理念と目的を持った科目を共通の評価項目で測定するのには限界がある。やはり、その科目独自の評価項目があってしかるべきである。

そうした視点から、平成15年度の授業評価からは、共通項目20項目に加えて、各科目群ごとの評価項目5項目程度を設定している。学生は共通20項目に回答した後、自分の受けている講義の科目群別評価項目を回答することになる。

項目の設定に関しては、大学教育センターで作成したのではなく、各科目企画委員会で検討して提案してもらった。その科目群の趣旨をもっとも理解しているのは、その科目群を実際に運営している委員

会であると判断したためである。おかげをもって、ほとんどの科目群で新たな項目を設定することができた。この場を借りて、各科目企画委員会のメンバーの方々にお礼を述べたい。

こうした項目を検討することにより、各科目群ごとに設定した目的をどの程度達成できているかを、これまで以上に明確で具体的に把握することができるようになるだろう。

各科目群ごとの項目は、具体的には以下のようになっている。

<人文系科目>

問23 人文系科目（哲学・倫理、心理学、歴史、文学、芸術）にふさわしい授業であった

問24 この授業によって、人間や人間の営み、文化のいずれかについて深く考えることができた

問25 この授業によって、人間や人間の営み、文化のいずれかについてこれまでとは異なる観点からみることができた

問26 この授業によって、人間や人間の営み、文化の素晴らしさについて学ぶことができた

問27 この授業によって、人間や人間の営み、文化について、学ぶ楽しさを知った

<社会系科目>

問28 この授業を受けることによって他の社会系科目に対する興味が増した

問29 この授業を受けることによって社会問題に対する関心が増した

問30 この授業は現実的な問題と関連付けて行われた

問31 この授業では概念や専門用語の説明・解説は十分に行われた

<自然系科目>

問32 わかりやすく、広い視点で講義されたので、この分野の教養が身につけて良かった

問33 自然科学と「人類社会」が深く関わっていることを、この授業で実感できた

問34 「自然との共生」の見方や考え方を、学ぶことができた

問35（高等学校で関連する科目を履修してこなかった学生に対する質問）

基礎知識はなかったが、興味を持って受講したので、授業についていけた

<健康・運動系科目（実技）>

問36 運動量は適切であった

問37 技術・体力の向上がみられた

問38 仲間や友人が増えた

問39 ルール、審判法を修得できた

問40 協調性が身についた

問41 技術指導は丁寧でわかりやすかった

<情報関係科目（情報科学演習）>

問42 TA（ティーチングアシスタント）による補足説明及び指導補助は適切であった

問43 私は授業で教員またはTAに疑問点等について直接またはメールによる質問・相談をした

問44 この演習授業は、大学での生活・授業等での情報の収集において役だった

<外国語科目>

問45 この授業を受講する前と現在とでは語学力が伸びたと思う

問46 この授業で学んだことは将来役に立つと思う

問47 この授業を受講することで外国語検定試験を受験する気になった

問48 この授業を受講することで外国語による情報収集能力が伸びた

問49 この授業を受講することで異文化理解が深まった

<専門基礎科目>

問50 将来自分が学んでいく上で役に立つ授業であった

問51 科学的な考え方を習得できた

問52 この教員の他の授業も受けて見たいと感じた

問53 TA（ティーチングアシスタント）に十分な助言を受けることができた（TAがいた場合）

問54 実験の目的、器具・装置の使い方をよく理解して実験することが出来た(実験科目の場合)

＜日本語・日本事情＞

問55 教員の助言・指導の仕方は適切であった

問56 この授業を受けて日本語が上達したと思う

問57 テストは難しかった

問58 宿題の量は適切であった

問59 クラス分けは適切であった

問60 プロジェクトワーク(スピーチ大会)は日本語を学ぶ上で役に立った

(2) 変更点2～「理解度」「充実度」「満足度」の項目の追加

先ほど機構の評価についてふれたが、機構が授業評価の分析結果を提示させる際、もっとも重視した視点が「理解度」「充実度」「満足度」であった。この講義における学生の理解度はどの程度か、学生は講義を受けることによってどの程度の充実感を得ているのか、学生はこの講義にどの程度満足しているのか、こうしたデータの提示を求められたのである。

そしてこれまでの授業評価項目には必ずしもこれらがすべて含まれていたわけではなかったため、データの提示にはかなり苦労したのであるが、そうした反省に立って、特にこれら三つの観点については留意して項目を設定した。

具体的には、以下の通りである。

＜理解度に関する項目＞

問9 教員の説明は分かりやすかった

問15 この授業についていけた

＜充実度に関する項目＞

問17 「大学で学んでいる」という実感がわく授業であった

問18 この授業を受けて、学問に対する興味が増した

＜満足度に関する項目＞

問16 心に残る良い授業であった

問19 この授業を他の学生にも薦めたい

問20 総合的に判断してこの授業に満足している

(3) 変更点3～シラバスに関する項目の追加

機構による評価の際、「シラバス」についても評価の重要な観点の一つであった。「シラバスがどの程度学生の役に立っているか」「授業はシラバス通りに進められているか」等、根拠となるデータに基づいて、教育効果について示すよう指示があった。従来の項目は必ずしもそれを満たすのに充分ではなかったため、以下の項目を設けた。

問6 授業はシラバス通りに進められた

問7 シラバスは受講決定や事前学習に役立った

(4) 16年度からの変更点～学生による回収

なお、今回の主な変更点は以上であるが、さらに16年度からは、回収方法についても変更を加える予定である。

それは、現行では教員本人が授業評価の実施から回収、事務への提出に至るまで行っているのに対し、今後は学生に少なくとも回収と提出については担当してもらおうという試みである。すでに大学教育企画運営委員会では了承されており、実施に向け準備を進めているところである。よって16年度からはさらに新たな方法により授業評価が実施されることになる。なお、ここでいう学生とは受講学生のことであり、回収作業はボランティアによって行ってもらう。

回収方法の変更の趣旨は主に以下の三点である。

第一に、学生の自覚を促すということである。これまで学生は、すべて受け身の形で授業評価に参加してきたと言ってよいだろう。しかし、学生に実施させることによって、授業評価の責任主体が移るので、学生側に自覚が生まれることを期待している。少なくともこれまでよりは、責任ある回答が期待できる。

第二に、回収率の向上である。共通教育における

授業評価実施率及び回収率は、これまでのところ決して低いわけではない。だいたい70%～80%の間を推移している。しかし、外部評価に対応する際には、やはり100%に近づける努力を行う必要がある。回収率が低くなればそれだけ提示できるデータの信頼性も低くなる。本学においても学部・学科によっては100%を維持しているところもある。それになら、い、学生に回収作業を任せることにより、回収率の向上を期待している。

第1章 基礎的分析

1. データの概要

分析結果を示す前に、データの概要等について述べておきたい。

ここで用いるデータは、平成15年度前学期に開講された科目のうち、授業評価を実施し回収のあった198科目、のべ人数14607名分の学生のデータであり、かなり膨大なものである。

表1-1-1) 科目区分ごとの人数分布

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 日本語・日本事情(外国留学生対象)	172	1.2	1.2	1.2
人文系科目	1923	13.2	13.2	14.3
社会系科目	1679	11.5	11.5	25.8
自然系科目	1033	7.1	7.1	32.9
健康運動系科目	1263	8.6	8.6	41.6
総合科目	566	3.9	3.9	45.4
琉大特色科目	678	4.6	4.6	50.1
情報関係科目	731	5.0	5.0	55.1
外国語科目	4346	29.8	29.8	84.8
先修科目及び転換科目	2216	15.2	15.2	100.0
合計	14607	100.0	100.0	

上の表は、科目区分ごとのサンプル数を示したものである。度数とは、統計学の用語であるが、ここでは人数を示す。例えば、日本語・日本事情の人数は172名ということを示す。パーセントは「有効パーセント」の列をご覧いただきたい。例えば、日本語・日本事情の有効パーセント1.2%であるが、これは全体の人数14607名のうち、172名の割合を示している。以下、同様の表が出てくることもあるが、このようにご覧いただきたい。

表1-1-2) 学部ごとの人数分布

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 法文学部	4599	31.5	32.5	32.5
教育学部	1271	8.7	9.0	41.5
理学部	2026	13.9	14.3	55.9
医学部	1567	10.7	11.1	66.9
工学部	3293	22.5	23.3	90.2
農学部	1238	8.5	8.8	99.0
科目等履修生	142	1.0	1.0	100.0
合計	14136	96.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	471	3.2		
合計	14607	100.0		

ちなみに表1-1-2は、学部ごとの人数分布を示したものである。システム欠損値とは、記入ミスなどにより学部が不明な学生の人数である。

2. 単純集計結果

次に、単純集計結果を示しておきたい。全60項目に学生がどのような分布で回答しているのかを表で示す。まずは共通項目20項目について、次に各科目群ごとの項目についてふれる。なお、共通項目のうち問21、22は自由記述項目であるので、今回のデータ分析には用いない。

(1) 共通項目

まずは共通項目についてそれぞれの得点の平均点を示しておきたい。授業評価項目の順番通りに表を示しておきたい。単純集計だけをみて特にこれといった解釈はできないが、それぞれの方が担当している講義の授業評価結果と比較すると相対的な評価が見えてくると思われる。

注目してもらいたいのは「平均値」の列である。全体的に見ると、項目は5件法であるから、中央値は3である。つまり学生がすべて普通の評価をすれば、それぞれの平均点は3になるはずである。そのように見ると、全20項目のうち、3以下なのは「この授業についての私の基礎知識(予習を含む)は十

表1-2-1) 共通項目の得点の平均点(5件法)

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
この授業はもともと興味のあった科目である	14067	1	5	3.62	1.038
私のこの授業の出席率はよかつた	14203	1	5	4.17	.986
私は、興味を持って積極的にこの授業に参加した	14185	1	5	3.67	.964
この授業についての基礎知識(予習を含む)は十分であった	14213	1	5	2.95	1.040
授業はシラバス通りに進められた	13993	1	5	3.66	.870
シラバスは受講決定や事前学習に役立った	13983	1	5	3.40	.944
使用したテキストは適切であった	14049	1	5	3.74	.924
教員の説明は分かりやすかつた	14116	1	5	3.85	.982
教員は学生を積極的に授業に参加させていた	14133	1	5	3.76	1.024
授業の開始・終了時間は適切であった	14118	1	5	4.05	.913
目的や趣旨がはっきりしていて、体系化された授業であった	14086	1	5	3.88	.907
教養や見識を養ううえで、あるいは、技能などを身につけるうえで、得るところの多い授業であった	14009	1	5	3.88	.937
学問に対する見方や考え方を深く学ぶことができた	13927	1	5	3.65	.949
この授業についていけた	13925	1	5	3.65	1.013
心に残る良い授業であった	13832	1	5	3.73	.993
「大学で学んでいる」という実感がわく授業であった	13761	1	5	3.70	.986
この授業を受けて、学問に対する興味が増した	13687	1	5	3.56	.977
この授業を他の学生にも薦めたい	13621	1	5	3.73	1.023
総合的に判断してこの授業に満足している	13426	1	5	3.89	.984
有効なケースの数(リストごと)	12300				

分であった」だけであり、学生の評価は高めであるということが言えるであろう。

また、もっとも重要な評価項目であると言われる総合評価「総合的に判断してこの授業に満足している」についても、3.89とかなり高めと言える。

(2) 科目ごとの項目

次に科目ごとの項目についての平均点を見てみたい。項目が多いので二つの表に分けて示したい。次の表1-2-2は人文系科目、社会系科目、自然系科目、健康・運動系科目の結果である。

これらも中央値の3をはるかに超えていることから、各科目の教育は、ある程度以上の成果を上げていると判断してよいと思われる。

表1-2-2) 科目ごとの項目の得点の平均点 (5件法)

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
人文系科目(哲学・倫理、心理学、歴史、文学、芸術)にふさわしい授業であった	1886	1	5	4.11	.854
この授業によって、人間や人間の営み、文化のいずれかについて深く考えることができた	1829	1	5	3.81	.888
この授業によって、人間や人間の営み、文化のいずれかについてこれまでとは異なる観点からみることができた	1814	1	5	3.79	.879
この授業によって、人間や人間の営み、文化のいずれかについて学ぶことができた	1765	1	5	3.68	.910
この授業によって、人間や人間の営み、文化について、学ぶ楽しさを知った	1741	1	5	3.80	.901
この授業を受けることによって他の社会系科目に対する興味が増した	1377	1	5	3.54	.968
この授業を受けることによって社会問題に対する関心が増した	1341	1	5	3.82	.938
この授業は現実的な問題と関連付けて行われた	1443	1	5	4.04	.914
この授業では概念や専門用語の説明・解説は十分に行われた	1449	1	5	3.88	.879
わかりやすく、広い視点で講義されたので、この分野の教養が身についた	1509	1	5	3.64	1.034
自然科学と「人類社会」が深く関わっていることを、この授業で実感できた	1506	1	5	3.53	1.045
「自然との共生」の見方や考え方を、学ぶことができた	1376	1	5	3.50	1.043
(高等学校で関連する科目を履修してこなかった学生に対する質問)基礎知識はなかったが、興味を持って受講したので、授業についていけた	1001	1	5	3.44	1.092
運動量は適切であった	901	1	5	4.22	.897
技術・体力の向上がみられた	912	1	5	4.07	.907
仲間や友人が増えた	929	1	5	4.12	.954
ルール、審判法を修得できた	952	1	5	3.88	.953
協調性が身についた	961	1	5	3.96	.932
技術指導は丁寧でわかりやすかった	932	1	5	4.09	.910
有効なケースの数(リストごと)	46				

表1-2-3) 科目ごとの項目の得点の平均点 (5件法)

		最小値	最大値	平均値	標準偏差
TA(ティーチングアシスタント)による補足説明及び指導補助は適切であった	566	1	5	3.81	1.041
私は授業で教員またはTAに疑問等について直接またはメールによる質問・相談をした	584	1	5	3.14	1.319
この演習授業は、大学での生活・授業等での情報の収集において役だった	553	1	5	3.87	1.010
この授業を受講する前と現在とでは語学力が伸びたと思う	3630	1	5	3.64	.935
この授業で学んだことは将来役に立つと思う	3652	1	5	3.79	.891
この授業を受講することで外国語検定試験を受験する気になった	3628	1	5	2.82	1.082
この授業を受講することで外国語による情報収集能力が伸びた	3609	1	5	3.24	.967
この授業を受講することで異文化理解が深まった	3588	1	5	3.66	.969
将来自分が学んでいく上で役に立つ授業であった	1337	1	5	3.53	1.042
科学的な考え方を習得できた	1299	1	5	3.39	.970
この教員の他の授業も受けてみたいと感じた	1279	1	5	3.16	1.108
TA(ティーチングアシスタント)に十分な助言を受けることができた(TAがいた場合)	558	1	5	3.34	1.053
実験の目的、器具・装置の使い方をよく理解して実験することが出来た(実験科目の場合)	565	1	5	3.52	1.001
教員の助言・指導の仕方は適切であった	218	1	5	4.20	.851
この授業を受けて日本語が上達したと思う	199	1	5	3.95	.849
テストは難しかった	195	1	5	3.19	1.040
宿題の量は適切であった	193	1	5	3.60	.919
クラス分けは適切であった	192	1	5	3.87	.970
プロジェクトワーク(スピーチ大会)は日本語を学ぶ上で役に立った	190	1	5	3.84	1.084
有効なケースの数(リストごと)	29				

上の表1-2-3は情報科学演習、外国語科目、専門基礎科目、日本語科目についてであるが、同様におおむね効果は上げているように思われる。ただ、外国語科目の「この授業を受講することで外国語検定を受検する気になった」が2.82と若干低いのが気になるところであるが、これは成果を上げていないというよりは、目標が高いために得点が低めに出ているためであると思われる。

第2章 科目群間の比較分析

1. 満足度

次に科目群間で得点の比較を行ってみたい。ある程度の基礎的数値はすでに示したので、ここでは視覚的にわかりやすく、グラフで示したい。まずは満足度からである。項目は「総合的に判断してこの授業に満足している」を用いている。中央値が3であることから、すべての科目群における満足度が高いと言えるが、とりわけ、満足度が高いのは、高い順に「健康運動系科目」「日本語・日本事情」「外国語科目」になっている。

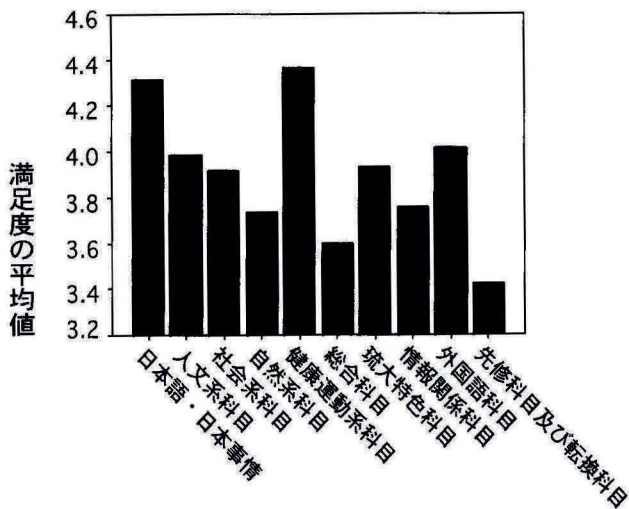


図2-1) 満足度の科目群間比較

2. 理解度

次に理解度についてである。項目は「この授業に

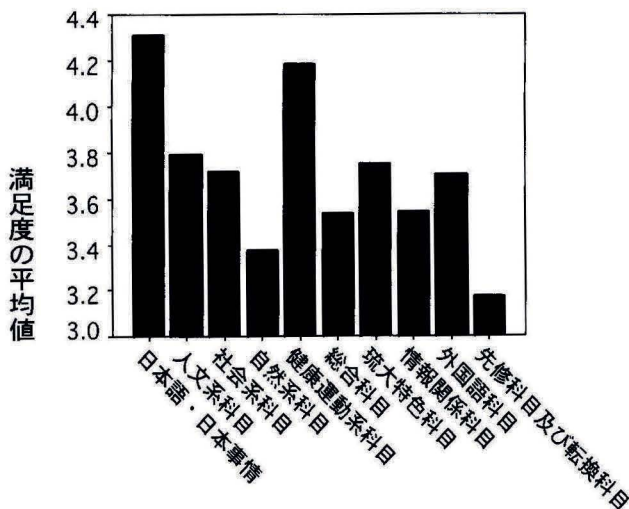


図2-2) 理解度の科目群間比較

ついていけた」を用いる。やはり「日本語・日本事情」「健康運動系科目」は高めである。

3. 充実度

次に、機構が重視している三つの授業評価項目に関する三つ目「充実度」について見てみよう。項目は「『大学で学んでいる』という実感がわく授業であった」を用いる。

「日本語・日本事情」は依然として高めであるが「琉大特色科目」がここでは高くなっている。

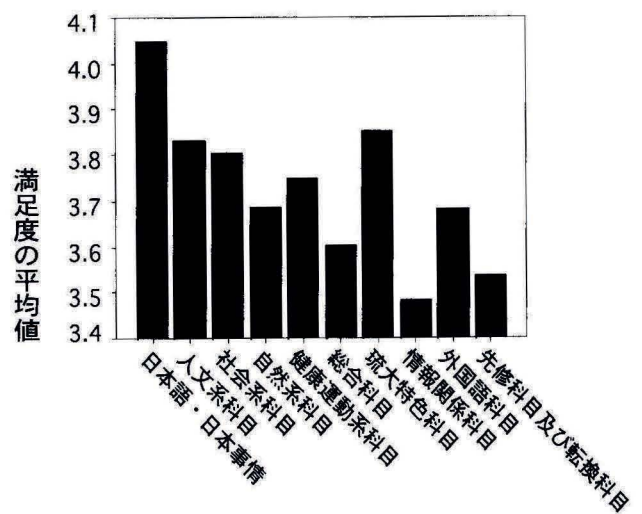


図2-3) 充実度の科目群間比較

4. データ解釈の際の留意点

さて、以上の結果について言えることは、すべての科目において比較的得点が高いことである。これは、ある程度の教育の成果が出ているととらえてよい。そしてさらに科目間で比較すると、とりわけ「日本語・日本事情」や「健康運動系科目」、「さらに「外国語科目」「琉大特色科目」に特筆すべき点がある。

ただし、この数値を額面通りとらえるのには注意が必要である。というのは、全国的な傾向として、①人数の多いクラスよりも少ないクラスの方が得点が高めに出る、②必修科目よりも選択科目の方が得点が高めに出る、③実技系科目の得点が高めに出る、といったことが言われているからである。

例えば、外国語科目の満足度は高かったが、これは全国的な傾向からすると異常なことである。大抵は、外国語科目の満足度は低い。ではなぜ本学の満足度が高かったのか。それは徹底した少人数教育が実現されているためであろうと考えられる。つまり①の条件を満たしているということである。もちろん、個々の教員の個人的能力にも起因するところが大きいであろうが、制度面からはそのように指摘できると思われる。

もちろん、このようなデータを示し、それぞれの科目の得点がどの程度かを把握することで、自分の担当している講義がどの程度なのかを相対的に把握できるメリットはある。こうしたデータを示すこと自体の意義が大きいと思われる。ただし、解釈やその利用のされ方には十分な留意が必要であるということは意識しておく必要がある。

特に最近では、各大学で教育業績をいかに評価するかに関心が集まっており、その一つの方法として授業評価結果を利用するという試みも試みられつつある。また授業評価得点を用いてベスト・ティーチャーなどの表彰制度を取り入れる大学も増えつつある。こうした動き自体はよいことであると言えるかもしれないが、だからといって、何の加工もなしにこうしたことに授業評価のデータをそのまま用いるのは危険であると言える。

それと関連して次に、その他の留意点を付け加えたい

5. 学生の評価はそもそも信頼できるか？

授業評価に対する批判には次のようなものが代表的である。すなわち、「そもそも学生に教員の授業の評価ができるのか」といった類のもので、実施の前提に関わる問題である。確かに、ろくに話も聞かず、居眠りや遅刻・欠席の多い不熱心な学生に評価されるのはたまたまのものではない。データからそのあたりの問題について考えてみたい。

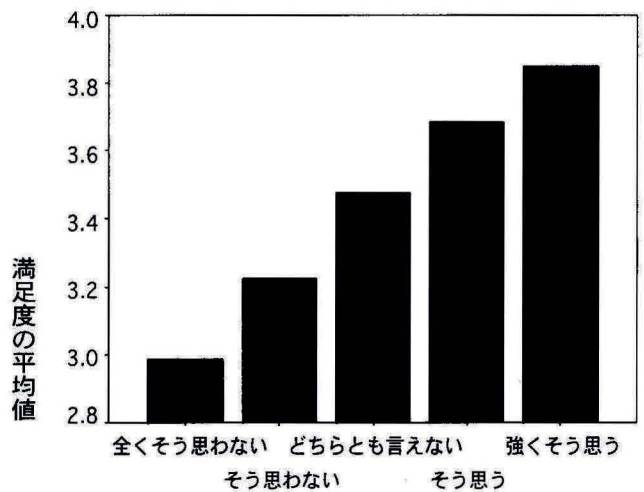
次のグラフは、学生の出席率（「私のこの授業の

出席率はよかった」について「まったくそう思わない」～「強くそう思う」までの5件法）と満足度得点（「総合的に判断してこの授業に満足している」同様に5件法）との関連を見たものである。

これからわかるように、出席率のよい学生ほど満足度が高いという傾向が出ている。つまり俗に言われているように、不熱心な学生ほどシビアな評価をするというのはどうやら当たっているようである。

こうしたことから、数字は慎重に扱う必要がある。よく授業評価項目自体に関する批判で、「学生の出席率や遅刻についての項目は授業評価項目とは言えないのではないか」というものがあるが、それは当たっている。例えば出席率について尋ねるのは、こうしたデータの信頼性を検討するために挿入された項目であり、厳密に言えば授業評価項目ではに。

いずれにしても、もしも本気で教育業績評価に用いるのであれば、そのまま数値を用いるのではなく、不熱心な学生のデータを排除するなどの統計的修正が必要となるのである。



〈私のこの授業の出席率は良かった〉

図2-4) 満足度と出席率の関連

おわりに

1. 授業評価結果の公表について

今回はこれだけ大規模なものはおそらく本学で初めて、授業評価に関する本格的なデータ分析を行った。そしてその結果は『センター報』という形で学内外に公表されるわけであるが、そもそもそうしたデータの公表自体にも根強い抵抗感があるのも承知している。しかしながら、すでにデータの公表の是非について議論する段階ではもはやないことについて申し添えておきたい。

すでにふれたように、大学評価・学位授与機構による評価では、授業評価のデータを示すことは必須とされている。本学もデータを提示したわけであるが、そうしたデータはすでに機構のホームページでも公表されている。つまり、本学はすでに、授業評価結果を学内外へ向けて公表しているのである。またこれも先ほどふれたように、機構にデータを提供することは全学教育委員会決定事項である。

ただし、問題はどの程度までの公表かということである。大学によっては個人名を挙げているところ（例えば九州大学）、個人名こそ挙げてはいないが科目番号等により最終的には個人名も明らかになるところ（例えば一橋大学）もあるが、本学がそうした方向を目指すかどうかはまだ議論すべきところである。そうしたことから今回は、個人名は明らかにならないような分析を心がけた。結果的に、科目群に焦点を絞った分析をするのが精一杯であった。

見方を変えれば、それは突っ込んだ分析をしていないということにもなるが、あるいは、今後はもう少し突っ込んだ分析が必要になる時もあるかもしれないが、現段階では、全体的な傾向、科目群ごとの傾向を把握することができただけでも大きな前進と考えている。こうしたデータを提示しただけでも判明することは多く、意義は大きいと思われる。今後はおそらく、継続的にデータを示していくことになるだろうが、学内から忌憚のない意見をいただき、方向性を見出していきたい。

2. 誇るべき実施率の高さと満足度の高さ

これまで自己評価報告書のごとく、いささか否定的なことばかりが強調されていたようにも思えなくもないが、実は琉球大学における授業評価に取り組みについては、他大学からも高く評価されている。

第一に歴史がある。第二に、実施率が高い。第三に、その成果と言えるであろうが、学生の満足度が高いことが挙げられる。

残念ながら今回データを示すことができないが、琉球大学も参加している全国の大学調査にて、他の大学に比べ本学の教員は教育熱心であり、授業評価の実施率も高く、また学生の授業満足度も高いという結果が出ている。他大学に比べ比較的早くから授業評価を実施し、軌道に乗ってきている証拠と思われる。この分析結果については、私も分析に関わっているもので、次号のセンター報で報告できるかと思っている。

いずれにしても、相対的な比較をすると琉球大学は優秀であると言ってよい。したがって、ぜひこのまま軌道に乗り、さらなる発展を遂げるよう、切に願う次第である。

最後に資料として、共通項目の学生の回答分布を示しておきたい。

この授業はもともと興味のある科目である

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	479	3.3	3.4	3.4
	そう思わない	1437	9.8	10.2	13.6
	どちらとも言えない	4053	27.7	28.8	42.4
	そう思う	5046	34.5	35.9	78.3
	強くそう思う	3052	20.9	21.7	100.0
	合計	14067	96.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	540	3.7		
合計		14607	100.0		

私のこの授業の出席率はよかった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	290	2.0	2.0	2.0
	そう思わない	710	4.9	5.0	7.0
	どちらとも言えない	2049	14.0	14.4	21.5
	そう思う	4443	30.4	31.3	52.7
	強くそう思う	6711	45.9	47.3	100.0
	合計	14203	97.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	404	2.8		
合計		14607	100.0		

私は、興味を持って積極的にこの授業に参加した

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	312	2.1	2.2	2.2
	そう思わない	1185	8.1	8.4	10.6
	どちらとも言えない	4256	29.1	30.0	40.6
	そう思う	5528	37.8	39.0	79.5
	強くそう思う	2904	19.9	20.5	100.0
	合計	14185	97.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	422	2.9		
合計		14607	100.0		

この授業についての基礎知識（予習を含む）は十分であった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	1192	8.2	8.4	8.4
	そう思わない	3449	23.6	24.3	32.7
	どちらとも言えない	5563	38.1	39.1	71.8
	そう思う	2945	20.2	20.7	92.5
	強くそう思う	1064	7.3	7.5	100.0
	合計	14213	97.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	394	2.7		
合計		14607	100.0		

授業はシラバス通りに進められた

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	210	1.4	1.5	1.5
	そう思わない	655	4.5	4.7	6.2
	どちらとも言えない	5199	35.6	37.2	43.3
	そう思う	5483	37.5	39.2	82.5
	強くそう思う	2446	16.7	17.5	100.0
	合計	13993	95.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	614	4.2		
合計		14607	100.0		

シラバスは受講決定や事前学習に役立った

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	508	3.5	3.6	3.6
	そう思わない	1221	8.4	8.7	12.4
	どちらとも言えない	6198	42.4	44.3	56.7
	そう思う	4254	29.1	30.4	87.1
	強くそう思う	1802	12.3	12.9	100.0
	合計	13983	95.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	624	4.3		
合計		14607	100.0		

使用したテキストは適切であった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	303	2.1	2.2	2.2
	そう思わない	856	5.9	6.1	8.2
	どちらとも言えない	3864	26.5	27.5	35.8
	そう思う	6135	42.0	43.7	79.4
	強くそう思う	2891	19.8	20.6	100.0
	合計	14049	96.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	558	3.8		
合計		14607	100.0		

教員の説明は分かりやすかった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	369	2.5	2.6	2.6
	そう思わない	962	6.6	6.8	9.4
	どちらとも言えない	2972	20.3	21.1	30.5
	そう思う	5997	41.1	42.5	73.0
	強くそう思う	3816	26.1	27.0	100.0
	合計	14116	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	491	3.4		
合計		14607	100.0		

授業の開始・終了時間は適切であった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	395	2.7	2.8	2.8
	そう思わない	1139	7.8	8.1	10.9
	どちらとも言えない	3737	25.6	26.4	37.3
	そう思う	5073	34.7	35.9	73.2
	強くそう思う	3789	25.9	26.8	100.0
	合計	14133	96.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	474	3.2		
合計		14607	100.0		

授業の開始・終了時間は適切であった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	259	1.8	1.8	1.8
	そう思わない	592	4.1	4.2	6.0
	どちらとも言えない	2199	15.1	15.6	21.6
	そう思う	6165	42.2	43.7	65.3
	強くそう思う	4903	33.6	34.7	100.0
	合計	14118	96.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	489	3.3		
合計		14607	100.0		

目的や趣旨がはっきりしていて、体系化された授業であった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	231	1.6	1.6	1.6
	そう思わない	671	4.6	4.8	6.4
	どちらとも言えない	3369	23.1	23.9	30.3
	そう思う	6147	42.1	43.6	74.0
	強くそう思う	3668	25.1	26.0	100.0
	合計	14086	96.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	521	3.6		
合計		14607	100.0		

教養や見識を養ううえで、あるいは、技能などを身につけるうえで、得るところの多い授業であった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	272	1.9	1.9	1.9
	そう思わない	748	5.1	5.3	7.3
	どちらとも言えない	3190	21.8	22.8	30.1
	そう思う	5937	40.6	42.4	72.4
	強くそう思う	3862	26.4	27.6	100.0
	合計	14009	95.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	598	4.1		
合計		14607	100.0		

学問に対する見方や考え方を深く学ぶことができた

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	318	2.2	2.3	2.3
	そう思わない	1009	6.9	7.2	9.5
	どちらとも言えない	4672	32.0	33.5	43.1
	そう思う	5205	35.6	37.4	80.4
	強くそう思う	2723	18.6	19.6	100.0
	合計	13927	95.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	680	4.7		
合計		14607	100.0		

この授業についていけた

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	468	3.2	3.4	3.4
	そう思わない	1303	8.9	9.4	12.7
	どちらとも言えない	3712	25.4	26.7	39.4
	そう思う	5596	38.3	40.2	79.6
	強くそう思う	2846	19.5	20.4	100.0
	合計	13925	95.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	682	4.7		
合計		14607	100.0		

心に残る良い授業であった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	383	2.6	2.8	2.8
	そう思わない	957	6.6	6.9	9.7
	どちらとも言えない	4029	27.6	29.1	38.8
	そう思う	5113	35.0	37.0	75.8
	強くそう思う	3350	22.9	24.2	100.0
	合計	13832	94.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	775	5.3		
合計		14607	100.0		

「大学で学んでいる」という実感がわく授業であった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	360	2.5	2.6	2.6
	そう思わない	1080	7.4	7.8	10.5
	どちらとも言えない	4005	27.4	29.1	39.6
	そう思う	5234	35.8	38.0	77.6
	強くそう思う	3082	21.1	22.4	100.0
	合計	13761	94.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	846	5.8		
合計		14607	100.0		

この授業を受けて、学問に対する興味が増した

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	380	2.6	2.8	2.8
	そう思わない	1227	8.4	9.0	11.7
	どちらとも言えない	4958	33.9	36.2	48.0
	そう思う	4650	31.8	34.0	81.9
	強くそう思う	2472	16.9	18.1	100.0
	合計	13687	93.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	920	6.3		
合計		14607	100.0		

この授業を他の学生にも薦めたい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	451	3.1	3.3	3.3
	そう思わない	926	6.3	6.8	10.1
	どちらとも言えない	3975	27.2	29.2	39.3
	そう思う	4761	32.6	35.0	74.2
	強くそう思う	3508	24.0	25.8	100.0
	合計	13621	93.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	986	6.8		
合計		14607	100.0		

総合的に判断してこの授業に満足している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそう思わない	346	2.4	2.6	2.6
	そう思わない	807	5.5	6.0	8.6
	どちらとも言えない	2791	19.1	20.8	29.4
	そう思う	5474	37.5	40.8	70.1
	強くそう思う	4008	27.4	29.9	100.0
	合計	13426	91.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	1181	8.1		
合計		14607	100.0		